

坪川委員（自民議連）

令和6年3月5日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）学習者主体の教育への転換について

これまで広島県では早くから、自らが問いを立て、解決策を導くような力を養うため、教育者主体から学習者主体への教育を進めてきたが、学習者主体の教育の更なる推進に向けて、どのように取り組んでいくのか、教育長に伺う。

（答）

本県におきましては、平成26年度から、全国に先駆けて「学びの変革」に取り組み、全ての校種において、「本質的な問い」による授業改善を行うなど、児童生徒の主体的な学びの実現に向けて、教育の質的転換を図ってきたところでございます。

小中学校におきましては、これまで、探究的な学びを中核にしたカリキュラムの開発・実践や、多様化する児童生徒の状況に対応した授業づくりに取り組んできたところでございます。

加えて、令和6年度からは、学校独自のカリキュラム改善に取り組む、市町教育委員会の挑戦を支援することとしております。

また、高等学校におきましては、教科横断的な学びを実社会での具体的な課題解決につなげるSTEAM型カリキュラムの実践やカリキュラム・マネジメントの視点に立った各教科の深い学びの実現を目的とした研修を、新たに全ての高等学校を対象に実施し、探究的な授業づくりを推進してまいります。

このような取組により、各学校のカリキュラムの質的向上を図るとともに、探究的な学びや個別最適な学びなどを推進することができる教員の人材育成を進め、「学びの変革」の深化に全力で取り組んでまいります。